

クロツグミ

Turdus cardis

ツグミ科・夏鳥



(上) クロツグミ (オス)
(イラスト: タカダヒロキ)



クロツグミ (メス)

名前の由来

黒いツグミの意。ツグミは「囁み」で、夏至の後さえずらなくなり口をつぐんでしまうからついたといわれるが、実際には夏至の後でもさえずる。

漢字名: 黒鶇

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ

形態的特徴

全長(くちばしの先から尾の先まで) 22cm。ムクドリくらいの大きさ。オスは頭から胸、背から尾まではっきりした黒で、白い腹に黒い斑。くちばしと足は黄色。メスは頭から背中が灰色。

声: 「キョロイ、キョロイ、コッキョーヨコッキョーヨ、コケエコ、ケコ、チョロ」などと変化に富んだ鳴き方で、音楽的かつ声量豊かにさえずる。

類似種と見分け方: マミジロは腹が黒くて白い眉がある。

生息環境・分布

低山帯から山地の、広葉樹林、人工針葉樹林などに生息。
分布: 中国中部と日本で繁殖し、中国南部やインドシナ半島に渡って越冬する。

低山まで生息。日高山脈東部では少なかったが、近年観察頻度が高くなっている。

日本には夏鳥として渡来し、九州以北の各地に分布、繁殖。北海道には夏鳥として4月下旬の渡来し、繁殖。平地から

十勝地方には4月下旬の渡来し、平野部から標高600mくらいまでの森林で繁殖するが、日高山脈の西側に比べて少ない。

食性・他生物との関わり

地上をはね歩きながらミミズやゴミムシなどの虫を食べる。植物の果実も食べる。捕食者は猛禽類など。

繁殖生態

繁殖期は5~7月、3~5個産卵し、13~14日抱卵、11~13日育雛する。巣作り・抱卵はメスのみ、育雛はオスメス共同で行う。

興味深い話・配慮事項

- 標識調査で、5年の生存が確認されている。
- 木の枝の上にお椀形の巣を作る。

■ ヒナに餌を与えるとき、オスはミミズを、メスは昆虫を運ぶことが比較的多いという。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
十勝出現期						繁殖						
フィリピンなど(越冬期)	繁殖											

参考文献

「原色日本野鳥生態図鑑(陸鳥編)」中村雅彦・中村登流、保育社 1995
 「野鳥ブックス2 フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、(財)日本野鳥の会 1982(1994増補版7刷)
 「北海道の野鳥」藤巻裕蔵・小堀煌治、北海道新聞社 1997
 「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985(1995 2版21刷)
 「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管

理学研究室 2000
 「十勝と釧路の野鳥」日本野鳥の会 十勝支部・釧路支部、1987
 「図説 日本鳥名由来事典」菅原浩・柿澤亮三 編著、柏書房 1993
 「鳥類観測ステーション報告」(財)山階鳥類研究所 1996
 「日本の野鳥図鑑1 野山の鳥」国松俊英、偕成社 1995
 石塚徹(1991) 繁殖期のクロツグミの行動上の性差. 日本鳥類学会1990年度大海講演要旨. 日鳥学誌, 39: 130-131.